平成２４年　２月　７日
土　木　部　河　川　課

第２回「貞山運河再生・復興ビジョン」検討座談会と平成２４年度知水講座を同時開催しました

【経　緯】

「貞山運河再生・復興ビジョン」の策定に向けて，この度，第２回目となる学識者等による検討座談会を，一般に公開して開催しました。

座談会に先立ち，平成２４年度知水講座として，貞山運河に詳しい学識者等３名による基調講演を催しました。一般県民と行政関係者を合わせ，１００名を超える聴講をいただき，貞山運河への関心の高さを実感しました。

【知水講座および座談会の概要】

● 日　　時　平成２５年２月４日（月）　１３：００～１８：００
● 会　　場　ＴＫＰ仙台カンファレンスセンター　ホール４Ｂ（仙台市青葉区花京院）
● 聴講人数　１０８名（一般等※５７名，行政関係者５１名）※報道含む
● **第 一 部　知水講座　～貞山運河の魅力を未来へ～**

１．基調講演

①　「貞山運河を活用した地域創造」
　　宮崎 正俊（貞山運河の魅力再発見協議会 会長）

②　「いま、貞山運河を思う人たちの 様々な考え」
　　上原 啓五（いま，貞山運河を考える会 代表）

③　「日本一の運河群，貞山運河・東名運河 ・北上運河を行く（震災編）」
　　後藤 光亀（東北大学大学院工学研究科 准教授）

２．貞山運河再生・復興ビジョンについて　（土木部 河川課）

● **第 二 部　第２回「貞山運河再生・復興ビジョン」検討座談会**

１．議事

①　第一回座談会の議事要旨および対応について
②　貞山運河再生･復興ビジョン(素案)について
③　運河群の津波減災効果について
④　今後の予定

【座談会委員】

竹村　公太郎（公益財団法人ﾘﾊﾞｰﾌﾛﾝﾄ研究所 代表理事）【座長】
神尾　文彦　（㈱野村総合研究所 社会ｼｽﾃﾑｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ部 部長）
越村　俊一　（東北大学 災害科学国際研究所 教授）
高橋　幸夫　（みちのくﾙﾈｯｻﾝｽﾌｫｰﾗﾑ 代表）
田中　仁　（東北大学大学院 工学研究科 教授）
西脇　千瀬（地域社会史研究者）
平吹　喜彦（東北学院大学 教養学部地域構想学科 教授）
宮原　育子（宮城大学 事業構想学部事業計画学科 教授）

【第一部　基調講演要旨】

（貞山運河を活用した地域創造）

・貞山運河には，歴史遺産と自然環境の２つの要素を備え，宮城の観光資源として可能性がある。
・沿川７市２町と大学，NPO からなる貞山運河の魅力再発見協議会で貞山運河の利活用指針を策定。
・運河を５つのゾーンに区分し，それぞれの地域に応じた取組を行うことが重要である。

（いま，貞山運河を思う人たちの様々な考え）

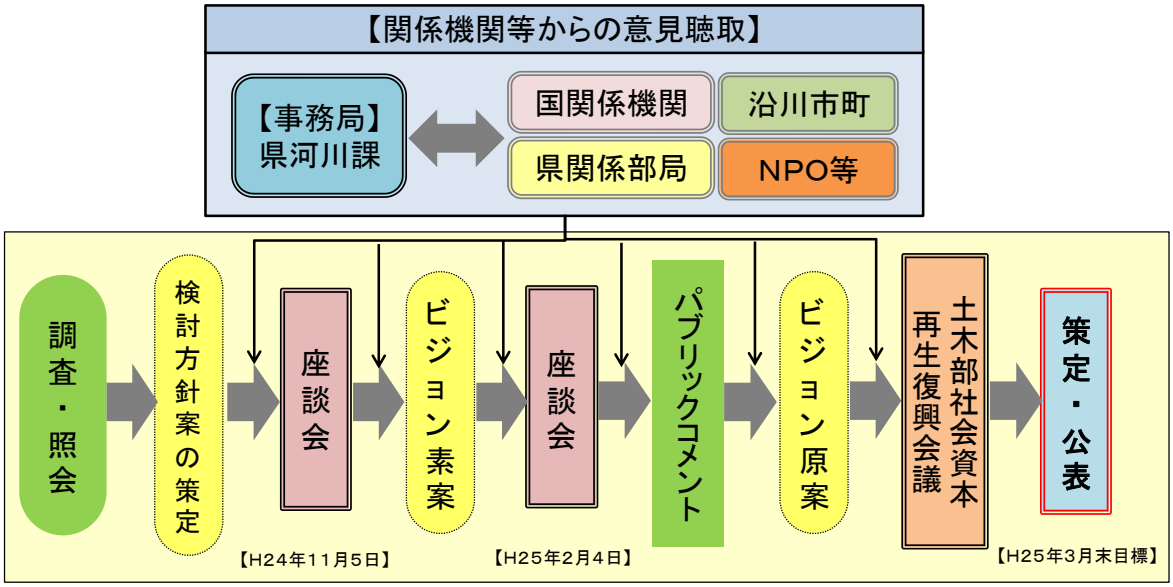
・“人工物”である運河は４００年を経過する中で“自然”となり，美しい景観を成している。
・運河を県のランドマークとし，復興の軸とするために，世界の先進事例を見据えた取組が必要。

日本一の運河群，貞山運河・東名運河・北上運河を行く（震災編）

・野蒜築港跡等，遺構を保全するとともに津波被害を記録し，共に伝承していくことが必要。
・運河の景観は，石積み護岸，松林群落，きれいな水質によって，より魅力的なものとなる。
・全国の他運河等との連携を進め，津波で被災した日本一の運河の情報発信が今，必要である。

【第二部　座談会議事要旨（抜粋）】

・震災で大きくダメージを受けた湿地環境等は変化の途上であり，あるべき姿をどの時点に設定すべきか，俯瞰的な視点が必要。
・運河が 400 年を経過して遺っている理由は，人々がそれを有効に用いてきたからである。これから 100 年，防災や観光にどのように役立てていくのかが問われている。
・災害復旧事業等の工事に伴う遺構の保全や記録保存をしっかりとやってほしい。
・貞山運河の津波減災効果について，どのような津波に対してどのような効果を期待するのか，明確にする必要がある。
・目標を達成するためのロードマップのようなものを作成すべきではないか。また，モデル地区を設定してビジョンの思想を早期に具現化することも重要である。
・継続的な推進体制が重要であるが，民間主体による推進体制にしていかなければ実効性が薄い。

【今後のスケジュール】

・今回いただいたご意見を踏まえて素案を再検討し，ビジョン原案をとりまとめます。
・3 月上旬にパブリックコメントを予定しており，今年度末の策定を目標としています。